

選挙についての知識

投票率とは

投票にいく

- ・ 2017年衆議院議員総選挙の投票率は53.68%、
- ・ 2019年参議院議員通常選挙の投票率は48.80%

投票率とは、選挙権と持っている国民の中でどれだけの人が投票をしたかという割合を指し、政治への関心を計る目安にもなっています

なぜ選挙にいかないの？

- ・ 投票所に行くのが面倒
- ・ どの候補者にすればいいかわからない
- ・ 自分が投票したところで何も変わらない

このまま投票率が低下し続ければ、投票率の高い高齢者優先の政策を招いてしまいます。それにより若者の投票率が低下するという負のスパイラルができてしまいます。

投票…？誰に？

投票しないということは、投票を棄権することと同じです。もし当選した政治家が、あなたに不利な政策を進めたとしたら…文句も言えませんね。そんなあなたにすすめるのは白票（無記載）での投票です。

白票と棄権の違い



上記のように「棄権」は投票自体を行わないので、投票にカウントされません。一方「白票」は投票にはカウントされるため投票率の向上には影響します。ただし有効票ではないので、特定の政党や候補者に対する効力はありません。

しかし、仮にこれまで「棄権」していた特定の年代の人たちが一斉に「白票」を投じた場合、その年代の投票率が向上するため、その年代を優遇する政策を打ち出す政党や候補者が現れる可能性があります。

何もしないと何も変わりません。投票にいきましょう！！